

健康プラザ

- 平成19年5月号 -

か し じょうみゃくりゆう “下肢静脈瘤”



“足の血管が瘤のように膨らんだ”、“足がつる”、“疲れやすい”、“皮膚が変色した”、“かゆい”、といった症状で悩んでいませんか？足の静脈が拡張して瘤のように膨らんだ状態を下肢静脈瘤と呼んでいます。いろいろな症状が出現します。また血管の病気の中で最も発生頻度が高いといわれています。

1. 下肢静脈瘤の症状

血液がうっ滞（よどむこと）することによって足がだるい、ほてる、痛い、むくむといった症状や足がつる（こむら返り）などの症状が出現します。重症になると皮膚の障害から湿疹、色素沈着、潰瘍などが観察されます。また静脈瘤に沿って痛みを伴う発赤と腫瘤を形成する血栓性静脈炎を併発することもあります。いっぽう、自覚症状がないものの気持ちが悪い、スカートがはけないなどと美容上の問題を主訴とする場合も少なくありません。

2. 下肢静脈瘤の原因と分類

下肢の静脈は筋肉内にある深部静脈、皮下を走る表在静脈（大・小の伏在静脈）ならびに深部静脈と表在静脈を連絡する交通枝（穿通枝）で構成され、各静脈には血液を重力に逆らって心臓に戻すための逆流防止弁（図2）があります。この逆流防止弁は静脈の中を流れる血液が重力に負けて足先へ引かれて逆流しないように食い止める役割をしています。逆流防止弁は血管の断面で見ると、八の字型をしており、心臓方向にのみ一方通行で血液が流れるように働いているのです。この弁が障害されると血液の逆流が起きて静脈圧が高くなり静脈瘤が発生します（図3）。

この逆流防止弁は表在静脈が深部静脈に合流するところ、すなわち高い逆流圧がかかりやすい足の付け根や膝の裏などの太い静脈の合流部で壊れやすく、これが原因で血液は逆流し足の

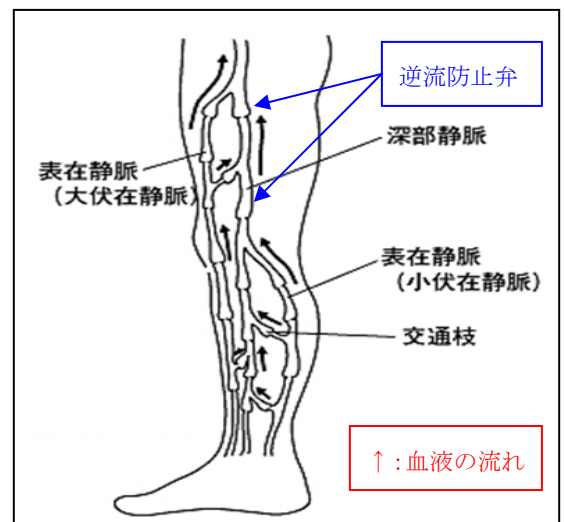
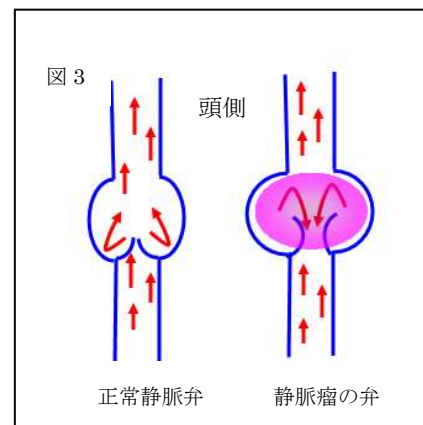
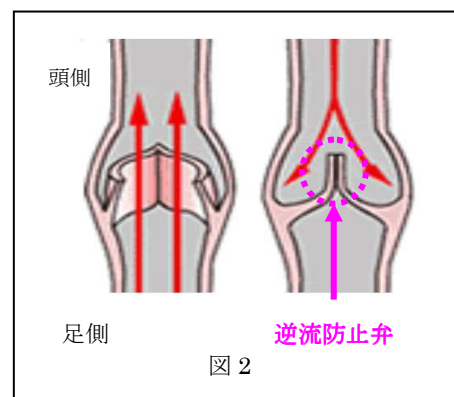


図1 下肢の血管の解剖

下の方に血液が溜まり、静脈が瘤のように膨らんでいきます（図4）。

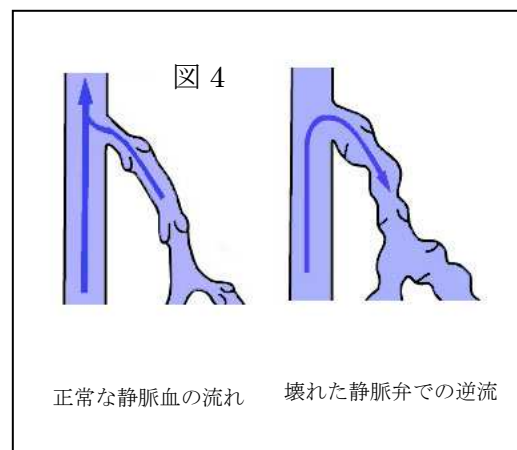
足の静脈瘤はその形状により4つに分類されます。

- 1) **伏在静脈瘤**：本幹およびその主要分枝の静脈で最も大きな瘤となる。足の付け根や膝の裏から逆流が生じるもので治療が必要となる静脈瘤のほとんどがこのタイプである。
- 2) **側枝静脈瘤**：伏在静脈より末梢の静脈瘤であり、やや細い。
- 3) **網目状静脈瘤**：細い皮下静脈が網目状に拡張し、その径は2～3mmである。
- 4) **クモの巣状静脈瘤**：径1mm以内の極く細い静脈瘤である。



3. 下肢静脈瘤の危険因子と発生頻度

下肢静脈瘤は女性に多く、加齢とともに静脈自体や静脈弁が弱くなり静脈瘤は発生しやすくなることはよく知られています。また親族に静脈瘤をもつ人がいた場合、発生頻度が高いともいわれています。また妊娠出産をきっかけに発生しやすく、教師・美容師・調理師・看護師・スチュワーデスなどの立ち仕事を職業としている人に多く見受けられます。40歳以上の女性の約10%に明らかな静脈瘤が認められるという報告もあります。



4. 診断

横になったり腰掛けた状態では目立たないものの、立った状態で血管が浮き出てくるようなら下肢静脈瘤が疑われます。また就寝中に足がつって目が覚めるような場合も下肢静脈瘤の可能性が高いと考えられます。さらに専用の弾性ストッキングをはくことで足のむくみ、痛み、だるさ、疲れが軽減されれば下肢静脈瘤が強く疑われます。このように下肢静脈瘤の自己診断は比較的簡単です。しかしながら治療方針の決定や確実な診断のために超音波装置を用いた検査や脈波法、静脈造影などが必要です。これらの検査により逆流の部位、範囲が診断され、治療方法が選択されます。

5. 治療

下肢静脈瘤はその大きさや部位などによって適切な治療法が選択されます。

- (1) **圧迫療法**：弾性ストッキングで静脈瘤を圧迫し、血液のうっ滞を改善する方法です。

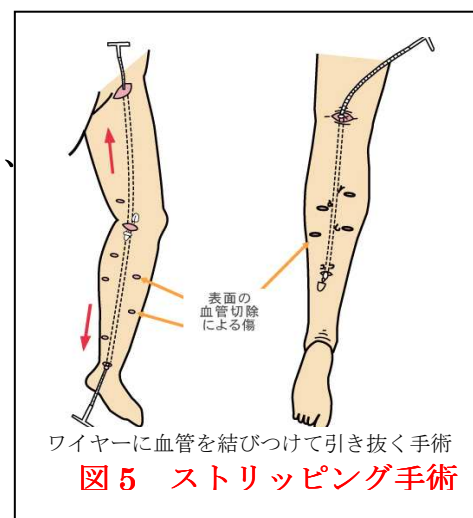
静脈瘤の自覚症状は軽減されますが、根本的な治療ではありません。弾性ストッキン

グは足首での圧力が最も強く、心臓方向にいくに従って圧力が弱くなるように作られています。弾性ストッキングは体にあったサイズや圧力の選定がとても重要なので医療施設でよく相談しましょう。最近ではデザインやサイズも改良され、選択肢も増えています。

(2) **硬化療法**：静脈瘤内に直接薬剤を注射して、血管壁に障害を起こすことにより血管内腔をなくし、血管をつぶしてしまう方法です。比較的細い静脈に生じた静脈瘤のみが適用となります。

(3) **結紮術^{けっさつ}+硬化療法**：伏在静脈自体に逆流がある場合には、硬化療法のみでは再発率が高いため、逆流の遮断を目的として皮膚に小切開を加え伏在静脈をしぼり（結紮）、切離する手術です。この方法は局所麻酔で行なえるので、日帰り手術が可能です。

(4) **ストリッピング（静脈拔去術）**：下肢静脈瘤の根治的な治療法として100年以上もの古くから行われている手術法で、弁不全を起こしている静脈を引き抜いてしまう手技です（図5）。足の付け根と膝、足首など数ヶ所を切開して、



ワイヤーに血管を結びつけて引き抜く手術
図5 ストリッピング手術

悪くなった血管の中に手術用ワイヤーを通して血管と糸で結び、ワイヤーを引き抜くことによって静脈瘤を取り去ります。全身麻酔か腰椎麻酔（下半身の麻酔）で行われる確実な治療法で、入院が必要です。

(5) **静脈内レーザー治療術—エンドレーザー法（EVLV : Endovenous Laser Treatment）**

静脈内に細いレーザーファイバーを入れ、中から静脈内側を焼いて閉鎖してしまう最新の方法です。血管が太く浮き上がっている、径5mm～2cm 静脈瘤はエンドレーザー法のよい適応です。局所麻酔でほとんど傷がなく短期間で静脈瘤の治療が可能です。国際的にも広く認められた、大変優れた治療法ですが、残念ながら健康保険が認められていないため自費診療となり、片足約30万円程度の費用がかかります。

(6) **マイドレーザー治療**：クモの巣状静脈瘤、網目状静脈瘤、毛細血管拡張症など径3mm未満の静脈瘤に対する治療に使います。レーザービームを照射し拡張した血管を消失させる方法ですが、片足約10万円ほどの費用がかかります。

(7) **スーパーフォト治療**：静脈瘤の中でも最も小さいタイプの毛細血管拡張症である、クモの巣状や網目状静脈瘤の中でも、さらに細い径が1mmに満たないような微小な静脈瘤の治療に効果的です。レーザー治療に比べ、肌へのダメージが少なく治療中の痛みも

照射後のトラブルもほとんどありません。

6. 生活上の注意

長時間にわたって立った姿勢を続けることは避けるように心がけて下さい。やむを得ない場合は足を高くした状態で休息をとったり、軽い運動をしたり、弾性ストッキングを着用するのが理想的です。また引っかき傷や虫刺されなどは潰瘍の原因となるので、下肢の清潔と保護に十分注意してください。

医療法人将優会クリニックうしたに
理事長・院長 牛谷義秀